

ミンククジラ オホーツク海・北西太平洋

Common Minke Whale, *Balaenoptera acutorostrata*



管理・関係機関

国際捕鯨委員会 (IWC)

漁業の特徴

本系群は 1987 年まで、小型捕鯨業により商業的に捕獲されてきた。1988 年以後は IWC の商業捕鯨モラトリアムにより、商業的捕獲は停止しているが、1994 年から毎年、国際捕鯨取締条約に認められた特別許可に基づく科学研究目的の捕獲が行われている。近年、沿岸の定置網等で、毎年 100 頭以上の混獲が報告されている。

最近の動き

改訂管理方式 (RMP) の第 2 回適用試験が 2013 年に終了した。現在、系群問題を解決すべく、定置網に混獲された個体への衛星標識装着技術の開発や、船上からの衛星標識装着の試みが行われている。

漁業資源の動向

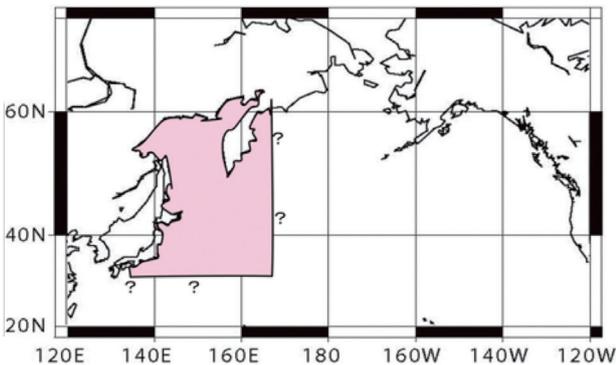
IWC の RMP 適用試験で想定された系群構造仮説を検証する目的で、特別許可に基づく捕獲が 1994 ~ 1999 年まで実施され、毎年 100 頭を上限に捕獲された。2000 年から、北西太平洋における鯨類と餌生物を巡る生態系の解明を目的とした捕獲調査の予備調査が実施され、同様に 100 頭を上限に捕獲された。2002 年からは、本格調査となり沿岸の 50 頭を加え合計 150 頭を上限に捕獲、さらに、2005 年からは沿岸の捕獲調査を鮎川と釧路の 2 か所でそれぞれ 60 頭を上限に捕獲が行われ、沖合の 100 頭に加え合計 220 頭を上限として捕獲されていたが、2014 年については、国際司法裁判所の「南極における捕鯨」訴訟判決に照らし、調査目的を限定するなど規模を縮小して実施することとなり、捕獲上限は沿岸で 102 頭、沖合で 0 頭となった。

生物学的特性

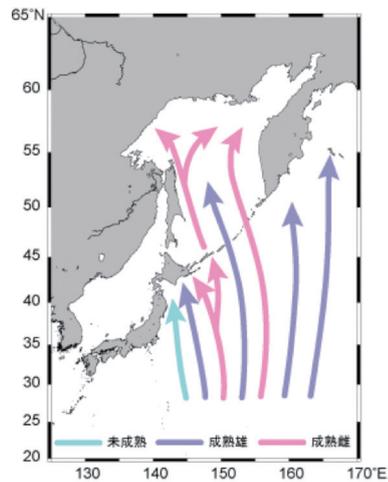
- 寿命：50 歳以下
- 成熟開始年齢：6 ~ 8 歳
- 繁殖期・繁殖場：12 ~ 1 月・低緯度海域
- 索餌期・索餌場：夏・オホーツク海
- 食性：サンマ、スケトウダラ、カタクチイワシ、オキアミ
- 捕食者：シャチ

利用・用途

刺身、ベーコン、工芸品など



ミンククジラ (オホーツク海・北西太平洋系群) の分布図



ミンククジラ (オホーツク海・北西太平洋系群) の春から夏の回遊経路

資源状態

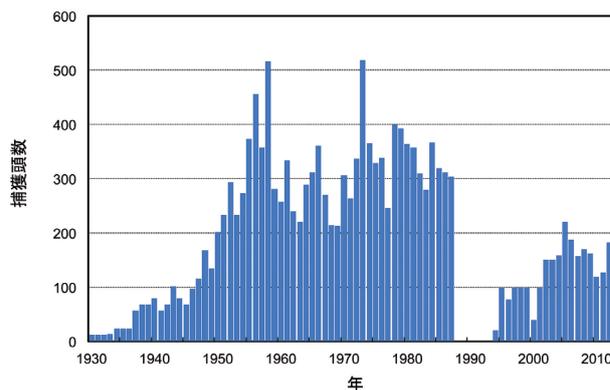
Hitter・Fitter 法を用いた解析によると、現実的な仮定のもとで、資源は増加傾向を示している。また、1999 年の成熟雌は初期資源量に比して 70% 以上の資源量を持つと考えられており、資源は比較的高位にあると判断することができる。

管理方策

本系群の商業捕獲は資源状態にかかわらず停止状態にある。1993 年に京都で開かれた IWC 年次会合に仕様書が提出された RMP には、フィードバック管理の考え方が意識的に取り入れられており、徹底したシミュレーションテストを通して様々な不確実性のもとでも安全な管理が行えるものとなっている。本系群への RMP の 1 回目の適用試験は 2003 年に終了し、極端に安全性を見込んだケースも含めた平均で 150 頭程度（幅は 63～311 頭）の商業捕獲枠が試算された。その後情報が集積されたこともあり、2 回目の適用試験が 2010 年から開始されていたが、2013 年に終了した。

資源管理方策まとめ

- 資源状態にかかわらず商業捕獲は停止されている。
- IWC において RMP が作られ、第 1 回目に続き第 2 回目の適用試験が終了した。



北西太平洋におけるミンククジラの捕獲頭数（1930～2013 年）
（定置網等による混獲は含まない）

ミンククジラ（オホーツク海・北西太平洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	高 位
資源動向	増加傾向
世界の捕獲量 （最近 5 年間）	な し
我が国の捕獲量 （最近 5 年間）	2014 年は捕獲調査により 年間 102 頭
最新の資源評価年	2013 年
次回の資源評価年	未 定